

授業科目 聴覚心理学

【担当教員名】 亀田和夫	対象学年	1	対象学科	言語
	開講時期	後期（後半）	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

<一般目標：G I O>
 聴覚の機構を理解し、聴覚が他の感覚と異なる特性を持つことを充分に知る。
 このことから難聴や聴覚機能検査について学ぶことの基礎を養う
 更に音声言語の声質が聴覚の特質と結びついていることを考察する。

<行動目標：S B O>
 1. 聴覚の機構について、既習の知識を整理して確実なものにする。
 2. 聴覚が鋭敏であると同時に広い範囲をカバーしていることを知る。
 3. 物理的な音の強度と大きさの感覚との関係、音の周波数と高さの感覚との関係を学ぶ。
 4. マスキングと臨界帯域について学ぶ。
 5. 聴覚世界の広がり（音色、両耳聴、騒音、難聴への対策など）を知る。
 6. 音声聴取の問題について考える。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	聴覚の機構：外耳中耳の集音機構、内耳の周波数分析	1	講義、A V機器による展示
2	聴覚の範囲、弁別閾	2	講義、A V機器による展示
3	音の高さ	3	講義、A V機器による展示
4	音の大きさ	3	講義、A V機器による展示
5	マスキングと臨界帯域	4	講義、A V機器による展示
6	両耳現象、音色、音楽聴	5	講義、A V機器による展示
7	騒音、難聴、音声聴取	5, 6	講義、A V機器による展示

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	聴覚と音響心理	境 久雄	コロナ社	昭和53年 4600円
参考書	声と言葉のしくみ	亀田和夫	口腔保健協会	1986年1600円
その他の資料				

【評価方法】 平常の学習状況と定期試験を総合評価する	【履修上の留意点】 既習の音響学の知識を活用できるよう準備しておく
-------------------------------	--------------------------------------